

## 表現遊び発表会を通して～「ヘンゼルとグレーテル」～

春木保育園 4,5歳児担任保育士 岸野紗羽

### 1. はじめに

私は、今年度保育士5年目を迎え、ぞう組（4,5歳児）クラスの担任となった。これまで未満児クラスの担任として4年間、保育士との応答的な関わりを通して育まれていく生活習慣に対して4,5歳児は生活面がほぼ自立し、集団の中の一人としての自覚をもって活動する姿を担任として目の当たりにし、これからスタートする一年に意気込みを感じていた。

4,5歳児クラスとなると保育園の中では最年長児となり、年間行事では中心となって子どもたち自身の頑張りや力がみなぎっている。主な行事として春は入園、進級、卒園式、夏はプール開きや自治会の夏祭り、秋は運動会や探索（芋ほり・探険遠足）、冬は発表会などがある。その中で例年12月に開催する「表現遊び発表会」に焦点を充てて実践報告を試みることにした。

### 2. 表現遊びとは

生活や遊びを通して子どもたちが何かになりきって演じたり、自分でイメージしたことを動きで表現したりして楽しむ遊びである。自分なりにイメージし創造していくことで心の豊かさを生まれ、道具や音を使うことで幅は広がり年齢に応じた活動が展開していく。当園では、そういう生活や遊びの過程を大切にし、12月に「発表会」として開催、保護者の方に観てもらっている。

### 3. 表現遊び発表会に向けて

#### (1) 今年度の全体的な計画（ねらい）

- ・生活や遊びを通して、うたや音（楽器）に親しんだり、絵本（物語）等でイメージを膨らませたりして、表現する楽しさを味わう。
- ・友だち（他児）や保育士と様々な思いを共有し、豊かな感性が育つ。
- ・人前で、表現する嬉しさを感じ、発表会に臨む。

#### (2) ①ぞう組（4.5歳児）のねらい

- ・自分のイメージを音や動きなどで表現したり、演じたりする楽しさを味わう。
- ・友だちと共通の目的を持って活動する中で思いやりや考えを伝え合い、協力し合う経験をし、自信や信頼感を持つ。

#### ②ぞう組（4.5歳児）の演目（経緯）

##### ○合奏「サンタがまちにやってくる」

クリスマスの時期に合わせて、楽しい気分を味わいながら演奏できるように「サンタがまちにやってくる」を選んだ。まずは親しみのある楽器（カスタネット、鈴）でリズム遊びを楽しみ、そこに木琴、トライアングル、小太鼓、大太鼓を加えてみんなで曲に合わせて楽器を奏で、音が重なり合う美しさを感じながら合奏に取り組んだ。

##### ○合唱「ハッピーチルドレン」

この曲を聴いた時から、「ハッピーハッピー」とリズムカルな曲調に親しみを持ち、すぐに口ずさむ姿があったので、合唱に取り入れた。何度か歌ううちに自然と体を揺らしたり、

生活の中でも友だちと一緒に歌い始めたりするようになり、みんなで声を合わせて歌う楽しさを感じながら自信をもって合唱に取り組んできた。

○劇「ヘンゼルとグレーテル」

夏に計画した「おばけやしき」、秋のハロウィン行事で仮装した体験からつながっていく。そこから発表会の活動に向けて子どもたちが今1番興味を示している「お菓子」が出てくる「ヘンゼルとグレーテル」を劇に取り入れることにした。



(3) 劇「ヘンゼルとグレーテル」を通して

①週間計画案

	子どもの姿	活動	援助・配慮
11月 3,4週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハロウィンでの仮装を経験しておばけになりきったり、セリフ（トリックオアトリート）を言ったりすることを楽しんでる。</li> <li>・童話や物語に興味を持つ。</li> <li>・繰り返し読むうちに「次はパンを置いていくんで」と物語を覚えたり、本棚から「ヘンゼルとグレーテル」を選び、友だちと一緒に絵本を見たりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘンゼルとグレーテルの本を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものつぶやきや気付きに耳を傾け、共感する。</li> <li>・登場人物を振り返ることで内容が理解しやすいようにする。</li> <li>・「また読みたい」という気持ちを受け止め、いつでも読めるようにクラスの本棚に「ヘンゼルとグレーテル」を用意する。</li> </ul>
12月 1週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やってみたい役になり体で動きを表現したり物語に出てくる言葉を言ってみたりしてやり取りを楽しむ。</li> <li>・ヘンゼルが家に帰ることができるように「どんぐりを置きたい」と言う。</li> <li>・同じ役の友だちに「一緒やなあ」と嬉しそうに声をかける。</li> <li>・物語には登場しない動物（うさぎ、鳥）をやりたいと言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の場面を取り入れた劇遊びをする。</li> <li>・子どもと一緒にセリフやオリジナルの物語を考える。</li> <li>・役を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒にセリフを言ってみたり、登場人物になりきって動いてみたりして楽しめるようにする。</li> <li>・子どもたちのイメージやアイデアを引き出しながら一緒にセリフや物語を作っていく。</li> <li>・なりたい役をなるべく叶えたり、それぞれの役を2人ずつにしたりして意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>
12月 2週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のセリフを思い出しながら言う。</li> <li>・セリフを忘れると保育士の顔を見て困った顔をする。保育士がセリフの最初の言葉を言うと思い出して言う。</li> <li>・登場するタイミングになっても自分の役を忘れていて声をかけられると登場する。</li> <li>・恥ずかしさで声が小さくなったり、照れ隠しでふざけたりする子がいる。</li> <li>・自分の役に合った衣装や道具を考えたり、作ったりする。完成したものを身に着けてさらに役になりきっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語に沿って役になりきってセリフを言ったり動いたりする。</li> <li>・衣装、小道具づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしさや照れを感じている子には劇の中の動きだけでなくそれぞれの役に合わせた言葉や動きを取り入れたり、保育士も一緒に役になりきって演じてみたりしながら楽しさを感じられるようにする。</li> <li>・セリフを忘れてたり間違えたりしても安心できるよう丁寧に伝えて、自信を持って言えるようにする。</li> <li>・役に合った衣装や小道具を製作することで役のイメージがより湧くように期待をもって参加できるようにする。</li> </ul>
12月 3週	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつ劇の流れやセリフを覚えて自信を持って大きな声でセリフを言ったり、劇の流れに合わせて自分でタイミングを見て登場したり、保育士の合図がなくても子どもたちで劇を進められるようになってきた。</li> <li>・友だちのセリフも覚えて、忘れていた友だちがいたら隣で教えてあげるようになった。</li> <li>・今まで恥ずかしがっていた子が「今日こそ頑張る」と保育士に伝え、役になりきって堂々とセリフを言う。</li> <li>・劇の後に「セリフ忘れてた」と自分で忘れていたことを振り返り、「次は忘れん」と次回の劇への期待も持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣装や道具を用意して劇をする。</li> <li>・リハーサルを通して他クラスに披露する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声でセリフが言えたり、自信を持って表現したりする姿を認めてさらに自信を持って取り組めるようにする。</li> <li>・劇の中に子どもたちの好きな楽曲や踊りを取り入れて劇をより楽しめるようにする。</li> <li>・リハーサルを通して人前で表現する嬉しさや楽しさを味わえるように場を設定する。</li> <li>・リハーサルを通して今まで取り組んできたことを見てもらうことでみんなで協力してやり遂げる満足感を味わい本番への期待を持てるようにする。</li> </ul>
発表会 当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いってきます」と自信をもった表情で保護者と離れ、保育士や友だちと挨拶を交わす。</li> <li>・「ちょっと緊張する」と保育士に言う。</li> <li>・舞台上上がる前は少し緊張した様子があったが、舞台上がり保護者の姿を見つけ笑顔を見せる。</li> <li>・すべてが終わると満足そうな顔で「楽しかった」と言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現遊び発表会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して本番に臨めるように笑顔で迎え入れる。</li> <li>・一人一人に声を掛けてクラスのみみんなで頑張ろうと意識を持てるようにする。</li> <li>・演目が終わるたびに励ましの言葉をかけ、自信を持って最後まで取り組めるようにする。</li> </ul>

## ②まとめ

初めて絵本を見て、話の内容に引き込まれる子どもが多く、物語を知っている子どもは少なかったが自分たちで演じることによって「やってみたい」と意欲的に取り組む姿が見られた。気の合う友だちとだけでなく他の友だちとの関わりが増えることで仲間意識を高めてほしいという思いから、それぞれの役を2人のペアに設定した。そうすると友だちと一緒にセリフを覚えたり、衣装づくりをしたり同じ役の友だちを意識しながら声を掛け合うことができた。友だちと一緒にだと恥ずかしさも緩和されて自分なりのイメージで動きを取り入れたりもするようになり表現力が高まっていった。自分の言葉で相手に伝えたり、時には保育士に援助してもらったりしたことで語彙力や表現力が養われコミュニケーション能力が培われていったと感じる。力を合わせて取り組む姿もたくさんあり協調性が育まれ、クラスのみんなで一つの目的に向かって取り組もうとする気持ちが育まれていったのではないかと思う。

## 4. 表現遊び発表会を終えて

今回4,5歳児クラスとして、4年ぶりに全クラスで行う発表会を経験し、子どもたちと一緒に考えたり、話し合ったりして一つの目標に向けて取り組んだことは大きな達成感ややりがいを感じた。

活動の進め方については担任間で話し合いを重ねながら試行錯誤をし、取り組む時期や促し方など日々の子どもの姿や活動の様子を見ながら工夫していったことは、一人一人が自分なりに表現することを楽しむ姿に繋がっていったと思う。

日に日に自信がついてくると発表会に対しての期待が一層高まり、本番では今まで取り組んできたことを十分に発揮することができていた。発表会を終えた直後の子どもたちの表情は達成感で満ち溢れ、一緒にやり遂げたことでクラスの一体感を育むことができた。

## 5. おわりに

日々の生活や行事を通して心身ともに大きく成長した姿を見せてくれる子どもたち。私自身も、子どもたちの仲間意識に大いに触れることで、保育の幅が拡がり、4,5歳児保育だからこそ味わえる経験を積んでこれたと思う。今年度あと残り数ヶ月となったが、卒園までの日々も、子どもたち一人一人を尊重し、自信・意欲につながる環境づくりに努めていきたい。